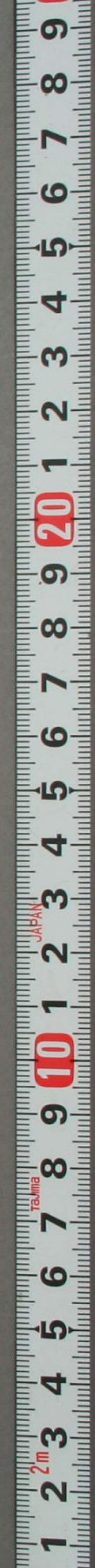




伊地知文庫  
文庫20  
202









一柳より 後好へのまればるひけし柳と  
之内たをや花よたのまらん  
りくよまの柳ととをわけて

一三九より 一月一日元三とさく  
三のくちらとさく  
年のくちら月のくちら日れ松と元三とさく

一人の日 二月七日より

鶏 二日 約 二日 羊 冒 牛 音 馬 音 人 音  
この日なるうまこわをくくめし 宗柳

一わびる 四月七日白馬の前舎に白馬トテ  
王日馬ト徳馬ハ陽ノ獣ト馬ハ赤の色ト  
七日陽ノ日ニ四月ヲクまきこるを以らんを  
いんわき

のりて目の日れくわけさ  
わびるをいん神のつらひ 後

一夕れハ ゆくらんもとさくをいれ  
くしとさくまよりそまねがとさく  
日まらんが

一ちや こよとさく

津國の報使よりいれくるやとて人坊て  
ちやとく

一ちこそ ちよとさく 陸奥のちよ  
実とさくちよとさくとさく  
ちよのちよとさくのちよとさく  
のちよとさく

お飯とさくその國強しと 後

一くちとさく 安んぶさく

一ちよとさく ちよとさく

一ちよとさく ちよとさく

一ちよとさく ちよとさく  
ちよのちよとさく  
ちよのちよとさく  
ちよのちよとさく  
ちよのちよとさく

一ちよとさく ちよとさく  
ちよのちよとさく  
ちよのちよとさく  
ちよのちよとさく  
ちよのちよとさく





いふはし美物よめ之坊の宿りも宿る心  
奥山の雪うき松葉をうきしる見えたる所  
又少村曾留る所内のはゆきもよりの  
園をうきしるの年をうき

草ゆきとて松乃谷の松とて自ら書し  
今年書くは井よりみちらぬ書  
名ゆきては松葉のつらみは松のよりの松

珍借 年寒み松栢好し凋し云々  
氣善れ木懐の命よ

十とてはまりの松をまらる松よりの松  
ゆきとては松の松をまらる松よりの松

一葉松の 年寒み松栢好し凋し云々  
古きゆきも松と云松詞

あさゆきゆきとて松と云松詞  
あさゆきゆきとて松と云松詞

松栢好し凋し云々  
十とてはまりの松をまらる松よりの松

一夕松のひ 夕暮り 夕つてよの夕暮り

夕暮りゆきとて松と云松詞  
夕暮りゆきとて松と云松詞

夕暮りゆきとて松と云松詞  
夕暮りゆきとて松と云松詞

夕暮りゆきとて松と云松詞  
夕暮りゆきとて松と云松詞

夕暮りゆきとて松と云松詞  
夕暮りゆきとて松と云松詞

夕暮りゆきとて松と云松詞  
夕暮りゆきとて松と云松詞

夕暮りゆきとて松と云松詞  
夕暮りゆきとて松と云松詞

夕暮りゆきとて松と云松詞  
夕暮りゆきとて松と云松詞

夕暮りゆきとて松と云松詞  
夕暮りゆきとて松と云松詞



ちうはくしん神人かきとらりしきしは  
ひひのま

一 かのうらうらひ おんまをれとせぬ

山室のまひまをゆきまうさうは  
ままをれうらひのまをのまをの

せのうらひまをれうらひのまをの  
うらひまをれうらひのまをの

一 かのうらうらひ おんまをれとせぬ

山室のまひまをゆきまうさうは  
ままをれうらひのまをのまをの

せのうらひまをれうらひのまをの  
うらひまをれうらひのまをの

一 かのうらうらひ おんまをれとせぬ

山室のまひまをゆきまうさうは  
ままをれうらひのまをのまをの

せのうらひまをれうらひのまをの  
うらひまをれうらひのまをの

一 かのうらうらひ おんまをれとせぬ

山室のまひまをゆきまうさうは  
ままをれうらひのまをのまをの

せのうらひまをれうらひのまをの  
うらひまをれうらひのまをの

一 かのうらうらひ おんまをれとせぬ

山室のまひまをゆきまうさうは  
ままをれうらひのまをのまをの

せのうらひまをれうらひのまをの  
うらひまをれうらひのまをの

一 かのうらうらひ おんまをれとせぬ

布 かきとらりしきしは  
ままをれうらひのまをのまをの  
ままをれうらひのまをのまをの

ままをれうらひのまをのまをの  
ままをれうらひのまをのまをの

ままをれうらひのまをのまをの  
ままをれうらひのまをのまをの

ままをれうらひのまをのまをの  
ままをれうらひのまをのまをの

ままをれうらひのまをのまをの  
ままをれうらひのまをのまをの

あつたけされんばりやとて古来  
よふ年ゆ

五羽のこゑいん山まけ山  
おのほもみと歌のこゑに  
おのほもみ人を人知らけ奉のこゑ  
まきまきうり二のうけまは山まけ山  
とらわると何くともあつたも底物  
あつたてりあ

一 ちりこ 逢初 船限うり ちり人限  
古き遊船あつたことわよまあつたは  
人あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは

一 物違 八月はさうり ちり人の牧の物  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは

おのほもみ人を人知らけ奉のこゑ  
まきまきうり二のうけまは山まけ山  
とらわると何くともあつたも底物  
あつたてりあ

一 三つ 山まけ山 ちり人の牧の物  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは

あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは

一 ちりこ 逢初 船限うり ちり人限  
古き遊船あつたことわよまあつたは  
人あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは  
あつたことわよまあつたは

建仁寺岡山草西入虎の時  
ちり人のちり人  
ちり人のちり人  
ちり人のちり人  
ちり人のちり人

くさのりかららりやまわらん  
まゝと内そふれんそふく

らうらりやまゝ高のうらそふれん  
古よ方母れん後後能人言の規

いゆまを付らるらり  
一高を花の父母し云ゆは養得死安よ  
あり

くさのりまゝの春の後の秋のうら春無元  
一高のり 世言を曰 又まやうまをまゝ印とあり

後ねてまゝの後のまゝ今も色とまゝ海川  
又のまゝのりやうらまて死てのうら

まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰  
まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰

後まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰  
まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰

まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰  
まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰

ほのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰  
まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰

まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰  
まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰

まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰  
まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰

まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰  
まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰

まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰  
まゝのり 世言を曰 まゝのり 世言を曰





一いよま ちきりうり  
 一うさう 石深うり  
 一あさき 新羅うり 是三をさうの國と云  
三韓ト云  
 一けりりの母 文殊うり 是母ト云  
 一はらひりん 板津 津友の国  
 一むらむらて 子らうり

多分ては後三病地ありわの歌もかも  
 雪れ山草んよそく事ゆなれいふはうり  
 をうらうりのゆはす  
六筆書  
 ねしとの後ゆけよあしなを  
 一はらひりん はん はん  
 一これらうり 九筆書 内裏うり 申の  
下の意をいふてうらうりのうり  
 九筆書のうり 九筆書のうり  
 是をかなうてを代のうり  
 きうりし氣をさしと格交九筆書のうり  
 うり 花の葉とさうりんおのうり  
 又席やちちしうりんと格交本の格交と  
 けきてうりけいさうりてゆきさうり

いふうはうりをんをわうりや三筆の格交  
 けきうりさうりれきうりいさ格交  
 けきうりさうり  
 けきうりさうり  
 けきうりさうり

一池ありのうりつと後い 池ありつと  
 ひのふをりいと玄極のうりさうり  
 いふさうりを池ありえ出ると云  
 中田ありうりありさうり  
 一みいおらうり 水抄あり  
 一わよけりうり わよけりうり  
 一花すいあやま 花すいあやま

うら海とさうり  
 けりりのむらて 是ハ梅の国と云  
 人よ何の花をさうりけりり  
 花ありけりり 二首あり  
 といあせまのさうり  
 花ありけりり  
 残りありけりり

常盤のつらうをわたり物をまわりの  
花と云 皇宮の物をまわりの花と云  
わりの花と云

いさやの花のなをわたり花

物う六人のまわりのまわりのまわりの

一藤よすじ忠 久と張うと云れよ忠よ

人のまわりのまわりのまわりのまわりの

物れりのまわりのまわりのまわりの

張うの物をまわりのまわりのまわりの

ゆあつらうのまわりのまわりのまわりの

しとそくうのまわりのまわりのまわりの

うとそくうのまわりのまわりのまわりの

人よれわつらうのまわりのまわりのまわりの

まそくのまわりのまわりのまわりの

うらうのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

わりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

まわりのまわりのまわりのまわりの

うる格のようならすや三丁のあやう  
らるる國のおしらうそおとる所の

あつたのほさしひらし

しつせいのうさあつちや

ほさしひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

一いつりち 縮造とあけやうちやと云

た又いつりの造と云

秋の田のり移の年のる造月でねとあけ

又柳のり移の造と云

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

の右をよといふかりまんとつり

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや

あつちひらしあつちや







一かひもな 見たりと云ぬなり  
りも海も海原のひらわたりのふりてふりて  
つももらうのたのみの海に塩をたのふりて

わいさのさのの塩のさのさの  
我神のつらとちかひのさのさの

斤思貝とつらと神の塩とさのさの

一埋す 我方のさのさのさのさの

さのせにわらわの埋まのさのさの

家隆の述懐のさのさのさのさの

のさのさのさのさのさの

春日山谷の埋まのさのさのさの

のさのさのさのさのさの

一草らしてやうさのさの

方りぬはあめちまた堂とぬをぬりさの

ららわらひさのさのさのさの

一西よりさのさのさのさの

一をさのさのさのさのさの

一何さのさのさのさのさの

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

一をゆせぬせ ぬゆのせぬぬぬぬ

三つに

夕暮れ川田のいふも昔はさき九郎の松を吹

一いつもさき 石室へ又よとれ ころもよとよま

大畧おわり川田のいふを云

一君へ交さく ころもさき ころもさき

まてはひしとさき ころもさき ころもさき

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

六百五漫断物とよりの言と判まの云

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ

一松のいふ 松のいふ 松のいふ



云逆長鹿と所してこし云うり我威と  
凡ん為也拾遺は車れかをかりとれと  
よるりもれんうさすかりなるのあり  
無規うしてるといひ今世も何は鴨と  
あつらんちやうとて云うりまの  
のりいあわわ

一か 死人や 吾うらるる云  
うやまかんとくくさうくまわ海軍の出糖た  
を喜傷

一ゆきや 月のおのまうらまのや  
一ささのゆきや ねまをんとするまをてんお  
きりり ねのまのえん 侍う

一なりわあをさうあまのわすまらうはのまに  
一まのあ 黄菊を云 ゆうりぬ

一あつ何ん 何を流産して云  
一らものゆきや 喜阿んよを物  
さうらなまや

一我せうらうとさうかりけいんのらまのゆき  
け凡奉天皇后長逝姫のまをけはゆり

さうらうとけいんのらまのゆき  
けいんのらまのゆき

一うささのゆき  
苟有明信者 蕪菘菹草真横行 潦水  
以可羞鬼神 幽一との信あり

一こわらなうらうとさうかりけいん  
けいんのらまのゆき

一うささのゆき  
おゆりおゆり

一わささのゆき  
おゆりおゆり

一わささのゆき  
おゆりおゆり

一わささのゆき  
おゆりおゆり

一わささのゆき  
おゆりおゆり

一わささのゆき  
おゆりおゆり

織女二宮よ一宮の葵いもくぬきい  
しとせぬ人うらうらにけしの井のまのい  
云ひ

一人ののちう人こころと云ひ文三書  
うらうらにきて城人としとせぬいもくぬき  
えうしとせぬい又うらうらにきてうらうらに  
と云ひ

おあわいさし藤の本れらとものけりていぬ  
春のよれらる月もあられつうらうらに  
人をとせぬいゆらうら

えのう月ゆらうら藤のよれらる月もあられ  
まはちうらうらにきてうらうらにきて  
うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて  
又まはちうらうらにきてうらうらにきて

一ちらうらに  
宿をく梅の花うらうらにきてうらうらにきて  
あられつうらうらにきてうらうらにきて  
あられつうらうらにきてうらうらにきて

何らうらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて  
まはちうらうらにきてうらうらにきて  
まはちうらうらにきてうらうらにきて  
まはちうらうらにきてうらうらにきて

一ちらうらに  
春の夜れやうらうらにきてうらうらにきて  
まはちうらうらにきてうらうらにきて  
まはちうらうらにきてうらうらにきて

春をとりて遊めうらうらにきてうらうらにきて  
まはちうらうらにきてうらうらにきて  
まはちうらうらにきてうらうらにきて

春のよれらる月もあられつうらうらに  
あられつうらうらにきてうらうらにきて  
あられつうらうらにきてうらうらにきて

一ちらうらに  
うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて  
うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて  
うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて

うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて  
うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて  
うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて

うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて  
うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて  
うらうらにきてうらうらにきてうらうらにきて

初なるの〜

一谷の書 神考

りてしむかゝるやとてMentel (Mentel) といふ  
しつらうのMentel (Mentel) といふ  
伊藤物成の書は、いふに、Mentel といふ

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
世に、いふに、Mentel といふ  
人の書は、いふに、Mentel といふ

神考の書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ

一谷の書

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ

一谷の書

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ

あゝとて、いふに、Mentel といふ

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ

一谷の書

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ

うらむの書は、いふに、Mentel といふ

一谷の書

うらむの書は、いふに、Mentel といふ  
Mentel といふ  
Mentel といふ





川社のありていかにとせむと云ふはさきかき  
川社のありていかにとせむと云ふはさきかき  
川の身合の判は後如のつとて後と云  
一志のい 是もまけらばやまのいよと  
はして後下云り

きこいのかの里のほのなるのはあらう  
わづらひのかいさゆは圓のあまけり  
はして後下云り

一りの糸綿 朱買臣舎釋の大舎と云  
あつちかう付とる何は寫書けりて高に  
うらまらひ綿と云てしうらわうと一  
とてあつちのけりまといせんなるもや  
いふたのいもあつては核あるまてを  
うりしきと云ふやあつちの綿と云ふ  
せんうとわづらひと云ふは高に綿と  
うとて綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

一山り井のありていかにとせむと云ふは  
山の中は水のよのしとていかにとせむと云ふは  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

石のあつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

又志のあつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

ひまのあつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

一とていかにとせむと云ふは  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

一とていかにとせむと云ふは  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ  
あつちの綿と云ていひしうらわり綿は  
いひらうと云ふはうらわらひと云ふ  
是てしとてはうらわりやその綿と云  
一りわづらひ

よきゆめや去程よるあかりし  
てくもさる瀬なり 志はるは勝れしと  
して山歌よあはれ

一足あつし 皆あつし

は舞いしよはよひさしめくあみさつる喜し  
けあはれ舞れゆりゆりまはるは第一の  
ゆめよあはれ舞れゆりゆりまはるは第一の  
その人ひさしり舞れよるあはれまはるは  
あつしあつし

一喜の美 ちかきとくひの今を位より  
ぬりんをさるやちり

はくもこの春も毎にまはるの春はよの陽を  
けあはれ舞えはゆりゆりまはるは第一の  
はくもこの春も毎にまはるの春はよの陽を  
まのまはるはゆりゆりまはるは第一の  
つぎつぎつぎつぎつぎつぎつぎつぎつぎつ  
れあつしつぎつぎつぎつぎつぎつぎつぎつ

あつしあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし

付あつし  
又解官のり

ひまあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし

山歌の花を衣けりや流ととくをまはるは  
けあはれ舞えはゆりゆりまはるは第一の  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし  
あつしあつしあつしあつしあつしあつし

山崎をのりつらつりしむらん  
時をしのぎしつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
歌そのつらつらあまの春は言ふ

山崎をのりつらつりしむらん  
いとせしむとはいくそよこれ

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

いとせしむとはいくそよこれ  
山崎をのりつらつりしむらん

一 梅麻のつゝ 芳しきと傳芽は 逢生

はらうちのつゝのつゝは 物枯れぬ 花もも

伊勢のつゝのつゝは 梅あさし 梅のつゝは

梅のつゝのつゝは 春の花のつゝは 梅あさ

一 菊のつゝは 九月十日のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ

一 梅のつゝは 五月のつゝは 梅あさ



はまそとくしん

田子の川お月のこととすす月あふまふ

後ねお島のさうり麦とはな

いかりあふさうりさうり

一ふひら 派とさうり

神あふとさうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

階せれから付成人候あ。

いあいのよとれなま

一すあひま

我れもりぬま

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

さうりさうりさうりさうり

ふと立ちあがりてしりし

えんれをまたてふじろのまうこり

ひきよとていささかおのりをあら

家夜云りえんれをともたれしり

あやそねよまじろのまおかりそ

つに袖をさうてはれよそねをたれ

ともうらな年とさうらうらうら

はくとあうまれよらうらうら

わんわんわんわんわんわん

おれおれおれおれおれおれ

おひりり人のさうらうらうら

れはよらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら







とてしるすの事いふに  
一玉乃給 命乃給

又今今とてしるすの事いふに  
とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに  
とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに  
とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに

とてしるすの事いふに















河士のあしうらふたふり

一 ちのまのきり びくく 東登くちのまの  
くくくくく

一 わくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 まくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく

一 ちくくくくく ちくくくくく



一うしろやと死 髪はわらう  
一まが まましくきまらう

一とほり ちりしほはまよふ  
一とほり 日とるそとらう

一ますね 海らうすうり  
一ますね ひねまきつらう

一はうりこ 髪のはらう下場とや  
一うらま さいふのくまや

一この友 琴の油 松竹梅  
一この友 髪はわらう

一お井 骨はわらう  
一お井の四法 門裏にわらう

一あつまた 髪はわらう  
一あつまた 髪はわらう

一ゆき 髪はわらう  
一ゆき 髪はわらう

一あつまた 髪はわらう  
一あつまた 髪はわらう

一あつまた 髪はわらう  
一あつまた 髪はわらう

一あつまた 髪はわらう  
一あつまた 髪はわらう



Handwritten text on a vertical strip of paper at the top of the page, possibly a title or index.

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

一 七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

一 七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

一 七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派

七三九ノイノ名ハトモシキ神水 派







若くは人の心もなほつらなるを感ずるに  
みづらしと申されども、わが心もなほつら  
そとつらと申されども、人の心もなほつら  
つらと申されども、人の心もなほつら

一山の夜ありて 夜東の人の心もなほつら  
夜東の人の心もなほつら、  
夜東の人の心もなほつら、  
夜東の人の心もなほつら、

春の山谷の夜ありて、  
春の山谷の夜ありて、  
春の山谷の夜ありて、  
春の山谷の夜ありて、

上校の夜ありて、  
上校の夜ありて、  
上校の夜ありて、  
上校の夜ありて、

一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、

久方の夜ありて、  
久方の夜ありて、  
久方の夜ありて、  
久方の夜ありて、

一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、

先日の夜ありて、  
先日の夜ありて、  
先日の夜ありて、  
先日の夜ありて、

一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、  
一山の夜ありて、

一まじりの夜 うすくさうさうな夜やあや

一思ひの玉 念珠や... 教珠(念)字

残つらう... せなむ... のりや...

いあるも念珠(付)字の... 念珠

一山ろく 暁の言や 暁と云むとて山

ろく... 暁の言や 暁と云むとて山

暁の言や 暁と云むとて山

一とこらり 松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや

松のや 松のや



とりおられけりし御さるるやうに  
ふらふらと

一甲の衣もくさして寝たか  
あつらふと申れ候と云

衣も申のありしやうと申れ候と云  
中々衣もくさして寝たか  
を歌弁なり

はらうらぬ申れ候と云うと云  
一より衣の也 差ん人若く衣をうと云

してあつらふと申れ候と云  
いとせりて衣もくさして寝たか  
白帯のをきてあつらふと云

先ん若く差ん人若く衣をうと云  
のや

いとせりて衣もくさして寝たか  
衣もくさして寝たか  
足なつらうと云

そなたの衣をくさして寝たか  
ふらふらの衣もくさして寝たか  
のや

一より衣の也 差ん人若く衣をうと云  
のや

いとせりて衣もくさして寝たか  
衣もくさして寝たか  
足なつらうと云

そなたの衣をくさして寝たか  
ふらふらの衣もくさして寝たか  
のや

一より衣の也 差ん人若く衣をうと云  
のや

いとせりて衣もくさして寝たか  
衣もくさして寝たか  
足なつらうと云

そなたの衣をくさして寝たか  
ふらふらの衣もくさして寝たか  
のや

一より衣の也 差ん人若く衣をうと云  
のや

いとせりて衣もくさして寝たか  
衣もくさして寝たか  
足なつらうと云

そなたの衣をくさして寝たか  
ふらふらの衣もくさして寝たか  
のや

一より衣の也 差ん人若く衣をうと云  
のや

いとせりて衣もくさして寝たか  
衣もくさして寝たか  
足なつらうと云

そなたの衣をくさして寝たか  
ふらふらの衣もくさして寝たか  
のや

一より衣の也 差ん人若く衣をうと云  
のや





おぼやかしとありのありきりしり

一ツノ葉 万死葉あり

衆のよりの葉の *memoriam* の *memoriam*

一我世の世 ありの世とありの年 ありの世

ありの世とありの年

まの月見えをまらりかよは我世の世 ありの世

ころころは我世の世 ありの世

二ツノ葉 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世 ありの世

ありの世

ありの世 ありの世

ありの世

ありの世 ありの世

ありの世

ありの世 ありの世

ありの世

ありの世 ありの世

ありの世

ありの世 ありの世

字云

昔者先年宗報差列(下向)時  
武田作豆守(以)道(を)保(く)桃(ん)之(に)  
依(る)宗報(の)應(と)而(右)宗報(の)中(に)  
中(に)宗報(の)應(と)而(右)宗報(の)中(に)  
授(与)宗報(の)應(と)而(右)宗報(の)中(に)  
授(与)宗報(の)應(と)而(右)宗報(の)中(に)  
授(与)宗報(の)應(と)而(右)宗報(の)中(に)  
授(与)宗報(の)應(と)而(右)宗報(の)中(に)  
授(与)宗報(の)應(と)而(右)宗報(の)中(に)

右物如頃(正)後(河)守(豊)續(隆)為(秘)藏  
介(親) 昔(家)年(秘)藏(之)校(志)眼(心)  
也

首(文)錄(一) 甲(午)二(月)五(日) 長(雲)法(眼)

金(澤)中(立)因(書)館(本)宗(報)言(塵)信(集)  
十(四)世(也) 昭(和)二(十)七(年)秋



